



研究課題名 格差の連鎖・蓄積モデルからみたライフコースと不平等に関する総合的研究

東京大学・社会科学研究所・教授

いしだ ひろし
石田 浩

研究課題番号：18H05204 研究者番号：40272504

キーワード：格差、不平等、ライフコース、パネル調査、計量分析

【研究の背景・目的】

若年者を取り巻く非典型雇用、低賃金、長時間労働など就業をめぐる問題は、晩婚化・未婚化・少子化につながる優先して解決されるべき重要な社会的課題として認知されてきており、格差・不平等についての社会的な関心も高まっている。しかし、1時点の横断的調査データでは格差の断面はわかるが、どのようにして1時点の格差（有利・不利）が蓄積していくのか、格差の連鎖を断ち切る要因は何なのかを検証することはできない。

そこで本研究では、「なぜ格差は連鎖・蓄積していくのか」を研究課題の核心をなす学問的問いとして据え、それに対する答えを探る。若年・壮年・中高年を対象にしたパネル（追跡）調査を長期間継続することにより、本研究は、(1)図1に示すように若年から壮年さらには中高年期にいたるライフコースの軌跡（trajectories）を、教育・就業・家族・健康・意識といった多面的な側面から総合的に捉え、(2)ライフコースの中で格差がどのように生成され連鎖・蓄積していくのかを検証する。

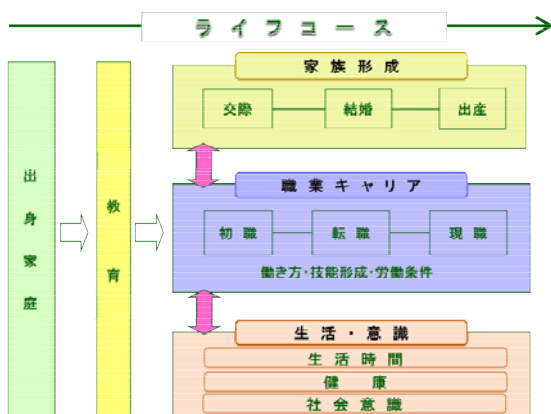


図1 ライフコースの流れ

【研究の方法】

これまでの研究活動を通して、2007年に日本全国に居住する若年（20-34歳）と壮年（35-40歳）を対象として追跡していく「働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査」と2010年に50歳から84歳の中高年を対象とした「中高年者の生活実態に関する継続調査」を実施してきた。今後もこれらの若年・壮年・中高年の対象者を追跡するパネル調査を継続していく。

パネル調査データには、ライフコースの初期の段階から一貫して不利な立場にある層、不利な立場から脱出した層、脱出・参入を繰り返す層、不利な立場を一度も経験したことがない層など、異なるライフコースの軌跡を持つ回答者が含まれている。これらの異なる層を比較することで、格差の連鎖・蓄積のメカニズムの検証が実現できる。本研究プロジェクトでは、労働市場における社会・経済的地位だけではなく、離家・結婚・出産という家族形成の側面、親子・きょうだい間の家族関係と支援の側面、そして健康や福利・幸福などの個人の主観的側面といった、多様なライフコースの局面に着目する総合的・学際的な研究を目指している。

【期待される成果と意義】

本研究では、格差・不平等の視点からみた多様なライフコースの軌跡が、どのような要因により生じているのかを明らかにし、「連鎖が起こるメカニズムは何なのか」を解明していく。特に「最も不利な立場」からの脱出可能性に着目し、ライフコースの過程でのセカンド・チャンスの特定に焦点を当てる。

失業や貧困といった社会・経済面だけでなく、多様なライフコースの側面と格差の生成の関連を分析し、それが親、本人とその子の3世代に渡る不平等の再生産につながる仕組みについても解明する。

蓄積したパネル調査データは、公共財として学術研究のために公開しており、二次分析研究や教育での利用として活用が可能である。また若年・壮年パネル調査を用いた国際比較研究が可能となるようにデータ組み換え作業に取り組んでおり、台湾・韓国の研究グループと共同でワークショップを開催し、東アジアの格差・不平等に関する比較研究を進める計画である。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・石田浩監修・編『格差の連鎖と若者1 教育とキャリア』（勁草書房、2017年）
- ・石田浩監修・佐藤香編『格差の連鎖と若者3 ライフデザインと希望』（勁草書房、2017年）

【研究期間と研究経費】

平成30年度－36年度
470,800千円

【ホームページ等】

<http://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/panel/JLPS/>